

VOL.126

農協からのお便り

Q
2018

グリーン
地域と農業をむすぶJA広報誌
Green

今月の表紙

コープさっぽろ
産直交流会開催

Topics

- ・特集 農協の挑戦～
- ・JA女性部視察研修
- ・コープさっぽろ産直交流会
他

大雪高原牛 &
愛別きのこの里
産地見学





Q 信用担当理事に就任され4ヶ月が経ちましたが今のお気持ちをお聞かせください。

A 当初は自分に務まるか不安でしたが、任された以上、精一杯頑張り、今抱えている農業や地域の問題、課題を皆さんの協力を頂き、ひとつひとつ解決しながら農協事業や地域の発展に少しでも貢献出来ればと思っています。

Q 高橋理事がいまお勧めする金融・共済商品を紹介していただけますか？

A いま、現状では金利情勢が低金利で推移しており、ローン商品をお勧めします。マイカーや住宅はもちろんのこと、農機具等のフルスペックローンも低金利となっておりますので皆様、是非ご相談下さい。

Q 前回の木村常務のインタビューでは「地域住民の方に JA が行っている事業に対して理解を深めてもらう必要がある」とのお話でしたが、現在行っている年金友の会の活動や加入方法について教えてください。

A 加入についてはJAで年金をお受け取りになっているお客様は会員となって頂いております。活動についてはパークゴルフ大会や温泉旅行、温泉湯治など毎年行っています。今後も会員の皆様から色々な意見をいただき、皆様に喜ばれ、楽しい年金友の会を運営して行きたいと考えております。

Q 高橋理事のご両親も農家とのことですが、農業後継者に期待することは何ですか？

A 近年、天候不順な状態が続き、作物の肥培管理には大変苦労されていることと思います。以前、ある組合員さんから「農家は毎年1年生だよ」と言われたことがありました。毎年、気候が違う中での肥培管理は経験も必要だが、毎年学ぶことが常にあると言う事で、自分も含め、後継者の皆様も初心を忘れず、日々学んでいただければと思います。

Q あなたのプライベートで、いま一番楽しみにしていることを一つ教えてください。

A 毎年、家族等で行く登山です。今年は日高のアポイ岳に行ってきました。

「〇〇の挑戦～」として農業者・役職員などを紹介、次回は、武田明彦理事を予定しています。

特集

～農協の挑戦～

信用担当理事

高橋 勝彦

おたずねします。

今、農協が変わらなければいけない事は？

挑戦しなければいけない事は？



プロフィール

昭和44年12月29日(満49歳)

昭和44年 上川郡上川町で出生

昭和63年 旭川実業高校卒業

昭和63年～平成2年

静岡県御殿場市で製薬メーカーの研究所で電気等の施設のメンテナンス業務を行っていた。

平成3年～平成11年

層雲峡ロープウェイに勤務。ロープウェイ、リフトなどの保守管理等を行っていた。

平成12年2月14日 JA上川町に入組

～平成19年3月 営農販売課で主に米穀の担当として汗を流していた。

～平成30年3月 金融部署で貯金、融資、共済など担当

平成30年4月～ 金融部長兼信用担当理事

趣味

家族でアウトドア(登山、キャンプなど)

バイク(家族と出掛けることが増えて乗る機会が少ないが)

夏休みもあって、子供達の沢山の笑顔… コープさっぽろ産直交流会

8/18
愛別・上川地区

コープさっぽろの組合員の方々の産直交流会が、旭川・北見地区からバス3台でご夫婦・ご家族など95名の参加を頂き開催しました。

当日は午前中に、グリーンサポート（旭ヶ丘地区）で大雪山高原牛の餌やり体験・とうもろこし収穫体験・馬鈴薯収穫体験を行い、午後からは上川町のキャンプ場でバーベキューを楽しみ、なめこの収穫体験を行いました。

夏休み期間もあって、子供達の沢山の笑顔を見ることができました。



農福連携にも広げていくことができれば…

愛別町6次産業化プロジェクトが始動

7/26
愛別地区

「愛別町地域特産物振興事業講演会」が総合センターで開催され約50名の町民が参加しました。

愛別町は、本年度から事業総額約2200万円（3年間）の計画で、地元農産物を活用した加工品開発を予定、第1弾は栄養価が高く健康増進効果があるとされる西洋野菜ビーツの加工品開発を目指します。

町内では愛山地区で約10戸が4年前に「愛山ビーツプロジェクト」を立ち上げ生産、ふるさと納税の返礼品に採用しており、首都圏を中心に申込が多いことから第1弾の食材に選ばれた。



今後、ビーツ以外にも愛別町の特産「米、きのこ」の加工品の開発についても予定、前佛町長は「付加価値の高い加工品を開発していき、将来的には雇用の場の確保につなげて、農福連携にも広げていくことができれば」と話した。

6次産業化プランナーの井上嘉文氏からも「最初に取り組むビーツは首都圏での需要も高い作物でSNSなどを活用したPRを通して、全国の人に愛別町を知ってもらおうきっかけとしたい」と話した。



旬のさくらんぼ狩りにサロマ湖の夕日も…

JA女性部一日視察研修を開催



7/19

愛別支部

JA女性部愛別支部(藤村仁美部長)の一日視察研修が行われました。

今年、増毛町のさくらんぼ狩りを楽しんだ後、同町内を散策し増毛町の歴史ある酒蔵や記念館等を視察、帰路の途中で秩父別にあるローズガーデン(ちちぶべつ)も見学しました。

旬を迎えた甘いさくらんぼや増毛町の新鮮な海産物に舌鼓を打ちつつ、風情ある街並みや花々の香りに、普段の忙しさを忘れ身も心もリフレッシュできた一日となりました。

今回参加できなかった会員の方も、次回の参加をお待ちしています。



8/5 フレッシュミズ



JAフレッシュミズの視察研修が部員6名子供2名の参加で行なわれました。

今年の視察先は網走サロマ湖方面、晴天に恵まれ片道約3時間の長旅でしたが、網走湖畔の鶴雅リゾートホテルのオホーツクバイキングで美味しい物を食べ、網走監獄博物館を見学してきました。

網走監獄では、リアルな人形に子供が泣き出すハプニングもありましたが、足湯につかったり、海を見たり、有名なシエラトを頂いたり、日頃の仕事や子育てから解放され楽しい時間を過ごせました。帰り道ではサロマ湖の素晴らしい夕日を眺める事もできました。

今回参加できなかった部員さんも、これからまた今年度のフレッシュミズの活動がありますので、是非、次は参加してみたい。

第34回国際農業機械展in帯広ほか…

米麦・愛農機連合同視察研修会を開催

7/16~17

愛別地区

愛別町米麦生産振興協議会(鉛口裕二会長)と愛別町農業用機械利用組合連合会(林信幸会長)合同の視察研修を帯広方面で行いました。

帯広で7月12日~16日の5日間開催された第34回国際農業機械展では、最新鋭の農機具や大型機械、スマート農業に対応した機器などの展示があり、当町が抱える高齢化や労働力不足と併せ、地域課題解決の一助として農地再編整備が進められている中で、このような取り組みも重要で、地域農業の発展に有意義な視察研修となりました。

また、十勝農試では、麦・大豆など各試験栽培の取組の紹介があり、大豆では新品種「十育258号」が開発され、今後の普及が見込まれています。



生育状況と出穂期について…

第2回 水稻青空教室を開催

7/19

上川地区



上川町もち米生産団地組合（石山浩幸組合長）による第2回水稻青空教室を丸山粉乾利用組合（東雲地区）で開催しました。
講師に上川農業改良普及センターの桂川普及員を迎え生育状況や病害虫対策と出穂期の注意点などについて説明を受け生産者は熱心に耳を傾けていました。研修終了後、上川支所にて懇親会も行いました。

お肌もツルツル・手土産を両手一杯に…

年金友の会 親睦旅行を開催

年金友の会

7/19 愛別支部

愛別地区年金友の会（工藤秀男会長）による日帰り旅行が会員50名の参加で開催しました。
今年、旭川市の『北鎮記念館』を見学、『ぎ花の杜』で休憩のあと、『旅亭雪の屋』で会食とカラオケ大会を楽しみ、温泉でゆっくりと疲れを癒しのんびり時間を過ごしました。帰りは『六花亭 神楽岡店』に立ち寄り、手土産を両手一杯に帰りました。



7/4~5 上川支部

上川地区年金友の会（長江洋会長）の親睦旅行が1泊2日の日程で美唄温泉ピパの湯ゆりん館で会員13名の参加により開催しました。
ゆりん館は空知管内随一の名所「東明公園」に隣接した小高い丘にある見晴らしの良いお宿です。肌なじみの良いとろみ湯は「化粧水のよう」と人気で、夜にライトアップされる青の洞窟温泉も美しい夜景とともに幻想的でした。
夜の宴会では、出来たての美味しい食事でお腹もいっぱいになり、食後にはカラオケと抽選会で楽しいひと時を過ごしました。



今回参加できなかった会員の方も、次回の参加をお待ちしています!!

わくわく農感塾 (JAグループ) バスツアー…

なめこ・舞茸の収穫体験と料理実習

8/10

食育教育

今年2回目となる「わくわく農感塾」が愛別町サンライズで開催され『愛別なめこ・舞茸の収穫体験と調理実習』を行いました。

わくわく農感塾は、JAグループならではの農業体験企画で平成19年から農協観光が窓口となり全道各地で年間約20回開催される人気のバスツアーです。

当日のバスツアーは募集30名に対して応募39名と今回も満員御礼企画となりました。ツアーは札幌発で旅行代金おひとり様3,500円、「鷹栖町田んぼアート見学と旬の野菜の収穫体験」の後『愛別なめこ・舞茸の収穫体験と料理実習』、昼食にはサン



ライズで料理実習した『きのこご飯・なめこのみそ汁・舞茸の素揚げ』を楽しみむツアー内容で、夏休みで訪れた子供たちも笑顔で楽しんでいました。

JAでは今年3回目の開催も予定、他にも漁業と連携した海の幸を楽しむ体験ツアーもあります、興味のある方は農協観光ホームページ（農感塾）をご覧ください。



大豆は近年多発のマメシクイガの防除を…

小麦・大豆地研修会を開催

7/13

愛別地区



小麦・大豆の現地研修会を袁嶋克也さん（豊里地区）の圃場で開催しました。

上川農業改良普及センターの桑原専門普及指導員より、小麦については穂水分測定における収穫適期の判断や収穫直前の準備について、大豆については生育状況や近年多発傾向にあるマメシクイガの防除等について説明をいただき、参加された生産者の方々は熱心に耳を傾けられていました。

するーらいふ 2章

「ムーンライトマラソン〜奥尻島の保健婦の物語」

去年の5月、連休を利用して道南の奥尻島を訪ねたことはこのコーナーで書いた。奥尻空港の2階で簡単な手続きをすると、駐車場には古い型のレンタカーが用意されていた。

ひとりゆっくり奥尻島の外周を走った。今でも立寄った景勝地の素晴らしい絵図が心に残る。その奥尻島では、6月30日ムーンライトマラソンが開催された。去年島を訪ねた時も同様の競技会の案内ポスターに出会っていた。今年で5回目を数えると言う。

そのムーンライトマラソンに出場する地元の保健婦の物語である。平成5年7月12日午後10時17分奥尻郡奥尻町北方沖で「南西沖地震」は発生した。マグニチュード7・8 推定震度6の日本海側観測史上最大の地震であった。地震とその後の津波災害は死者202人行方不明者28名に及んだ。当時の奥尻島の人口は4700人程だった。

実は島に大地震大津波が発生した時、身重の女性がいた。危険を察知し、隣に住む女性も誘い車で必死に避難した。しかしそれを追うように大津波が車を飲み込んだ。車はそのまま海に呑み込まれて行った。女性は闇の海中で必死に、運転席側のガラス窓をこじ開け始めた。身重の事も忘れ、同乗の隣の女性の手を力いっぱい引上げ、海面に辿り着いた。

海面を漂う住宅の屋根を見つけた。必死にその屋根にへばり付くように身を任せた。闇で見えない隣人の女性にも大きな声で「何かを掴んで海に浮かぶように」と叫んだ。

遠くにイカ釣り漁船の明かりを見つけた。大津波を逃れて海に出ていた。女性は漁船を目掛けて叫んだ。『助けて』何度も続けた。

やがてふたりはイカ釣り漁船に救助された。その後、壊滅的な被害を受けた奥尻島の一角で産声が聞こえた。漁船に救い出された女性は無事出産を終えた。島の記憶に刻まれる平成5年生まれの子の誕生だった。地域復興が進む中で発行された記念誌に、母親は九死に一生の記憶を克明に寄稿した。

しかし母親になった彼女は、次第に社交性は薄れ外へ出ることもなくなって行った。大惨事の中での誕生のドラマが理解できるようになった娘は、母の痛みを十二分に悟った。その母達を海上で救い上げたイカ釣り漁船の船長にも、自分の誕生を喜んでもらっている事が強く伝わった。母が避難時に誘った隣の女性は、その娘をわが子のように見守った。札幌で看護学を学び資格を得た娘は、奥尻島の保健婦として母の元に戻って来た。ムーンライトマラソンへの出場資格は島外の人を優先した。島民はボランティアを依頼されていた。しかし彼女が奥尻島へ戻った経緯も誕生のドラマも島民みんなが共有していた。練習を積んだ彼女は参加者に加えられ、6月30日17時にスタートするハーフマラソン21・097キロに挑んだ。混濁の海の中を彷徨いながら耐え自分を産んでくれた母のために、暗闇の海上で母達を見つけ船上に救い上げた船長のために奥尻島を力走した。

母と一緒に助かった女性も暫らく伴走するほど興奮していた。イカ釣り船は霧の中、近海に停泊し明かりを点け、船長は大漁旗を打ち振った。この日母親は沿道を選べず遠くから彼女の力走を見て感激したという。災害の復興は歳月の中でなし得ても、長い期間心的外傷に苦しむ人も多い。月の光の中をいろいろな想いで走った人がいた。イカ釣り漁船の船長も母親と海中で闘った隣の女性も、実はともに家族を奥尻の海に喪っていたのだ。／『目撃！ にっぽん』7月22日を見て



パズル? 頭の体操



タテのカギ

- 1 十五夜に飾る植物
- 2 米の収穫作業の一つ
- 3 エレベーターの表示では「B」
- 4 よく飼われているペットなんだニャ
- 5 石原裕次郎と牧村千子のデュエット曲「——の恋の物語」
- 6 ——足りて礼節を知る
- 7 和風の携帯入れ、黄門様のドラマでおなじみです
- 8 恋愛運や金運などを見てもらいます
- 9 カラオケ店で離さない人もいます
- 10 招く人がホストなら、招かれる人は
- 11 月の模様はウサギがこれをつけているように見えるとか
- 12 佐渡島に保健センターがある島

ヨコのカギ

- 1 十五夜に飾る植物
- 2 米の収穫作業の一つ
- 3 エレベーターの表示では「B」
- 4 よく飼われているペットなんだニャ
- 5 石原裕次郎と牧村千子のデュエット曲「——の恋の物語」
- 6 ——足りて礼節を知る
- 7 和風の携帯入れ、黄門様のドラマでおなじみです
- 8 恋愛運や金運などを見てもらいます
- 9 カラオケ店で離さない人もいます
- 10 招く人がホストなら、招かれる人は
- 11 月の模様はウサギがこれをつけているように見えるとか
- 12 佐渡島に保健センターがある島

パズル? 頭の体操

先月号の答え



解答

A B C D E
ナツマツリ

日本でいちばん大切にしたい会社…

上川地区農協常務参事協議会道外視察研修に参加

7/3~6
レポート

上川地区農協常務・参事協議会で北陸方面（石川・富山）の視察研修に参加させていただきましたので、研修内容について報告します。

初日、集合場所である旭川空港に着くと、JAひがしかわとJA東旭川の参事が、地元で甚大な豪雨被害が発生したため急きょキャンセルとの知らせが入り、重苦しい雰囲気の中での出発となりました。



初日の研修先は、石川県能美市の根上工業株式会社でした。北陸3県は、古くから繊維産業が盛んで、合成繊維の開発に伴い、付帯する加工薬剤や染色加工の総合化が進んだ地域です。当社は、それらを応用した樹脂コーティング剤など、最終商品の極一部にしか使用されない「中間材」の製造販売会社で、特にOA機器や歯科医療用ポリマーなどの国内シェアはトップクラスを誇ります。

社長が語るところによると、社の販売に対するモットーは「安売りはしない」という姿勢で、製品の原価基準ではなく最終製品価格を参考とする、例えば、1台2千万円のペンツに使用する製品であれば、それに見合った価格で強気の営業をかけるということで、技術力に対する自信がうかがえます。

当社は平成25年に、第3回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞を受賞しました。この賞は、「人を幸せにする経営」を行う会社に対する顕彰制度で、「人」とは、従業員とその家族、外注先や仕入先、顧客と地域社会、株主を指します。

会社の発展は従業員の生活環境の向上に直結するという理念のもと、事業を通じた人材育成と社会貢献を実践する、従業員90人規模という少数精鋭の技術集団組織でした。

2日目は、金沢市農業センターにおいて、資料をもとに金沢市農業の概要と金沢農業大学校の取り組みを通じた担い手育成に関する説明を受けた後、センター内の試験圃場を視察しました。

金沢市の平坦地域は水稻単作経営が中心ですが、海岸線の砂丘地域は地質を生かした県内最大の園芸産地で、伝統的な加賀野菜の作付が盛んな地域です。加賀野菜は京野菜にも比肩する伝統野菜ですが、平成9年にブランド化を促進するための認定制度を導入して以降、今日までに昭和20年以前から栽培されている15品目を認定しています。

また平成18年、担い手の確保・育成と品種の維持・向上を目的として、センター内に金沢農業大学校を開設しました。研修生は野菜の栽培技術を習得するための講義や実習等を2年間研修します。これまで99名の修了生のうち74名が就農しています。

3日目の研修は、株式会社ウーケ富山入善工場でした。(株)神明100%資本の無菌パックごはん製造販売会社です。

パックごはんの需要は、単身者や高齢者を中心に右肩上がりの伸びを示しており、トップシェアの佐藤食品工業は、全農との資本提携を機に新工場の建設、増産計画をもっています。当社も3ライン目を増設中で、視察時も工事が進められていました。

当社の特徴は、黒部川扇状地湧水（名水100選）利用の良質な炊飯水と、国際認証規格（SQF）取得のもと、安全性とクオリティを追求した品質とこだわりにあります。また、工場の空調に海洋深層水を利用するとともに、温められた排水を隣接するカキの養殖場に供給するという、エネルギー削減にも貢献しています。

その他、「近江町市場」「やちや酒造」「JA加賀農産物直売所」等を視察させていただきましたが、冒頭で記したとおり、7月2日夜半から3日未明にかけ、特に旭川市や東川町を襲った豪雨被害の状況は、現地においても全国ニュース

で報道され、視察先の方々からも心配や見舞いの言葉を頂戴する程でした。帰町して初めて知ったことですが、当地区においても、河川の氾濫により一部の農地が被害に見舞われました。政府は、西日本豪雨を含む全国の豪雨・暴風被害を激甚災害に指定したとの報道はありましたが、本年産はもとより次年産以降の営農に対する影響も大きいと思われ被災された農業者の心情は察するに余りあります。

この度の豪雨被害に見舞われた全ての農業者に対し心よりお見舞い申し上げ、道外視察研修の報告とさせていただきます。



開催告知 (開催時期を変更しました)

上川中央農協 年金友の会(愛別・上川合同)

温泉湯治

平成30年11月に開催!!

◎温泉湯治行程予定◎

- ☪ 1日目 JA出発 14:30(ホテル到着後 終日自由行動)
- ☪ 2日目 クイズ大会・映画鑑賞 夕食は宴会
- ☪ 3日目 輪投げ大会・カラオケ 夕食は宴会
- ☪ 4日目 朝食後ホテル出発 10:00



(内容は確定ではありませんので変更になる場合がございます。)

◆◆◆◆◆募集案内は10月中旬を予定しています。少々お待ちください!◆◆◆◆◆

JAで年金を受給しませんか?

毎月20名に
賞品を
お届けします

体の内側からスッキリ! 体内環境サポートして選べるグルメが当たるチャンス!

さらに期間中
300名にうれしい
景品をプレゼント

対象商品のご案内

発酵さらり
(はちみつレモン味)
シールに乳酸菌を一食(30ml)あたり100億個配合。健康力をサポートする選り抜かれた乳酸菌です。ホットでもアイスでも! (5倍希釈)
〈500ml〉1,500円(税別)

補酵素のちから

プレミアム **パイン風味** **マスカット風味**
野菜・果物などを発酵熟成された野菜発酵素とブルーベリー発酵物を加えた酵素酢飲料です。(7~10倍希釈)
〈1,000ml〉各2,800円(税抜)

ラブレゼリー

ラブレ菌(植物性乳酸菌)、ガラクトオリゴ糖を配合。ラブレ菌は菌自体が強いのが特徴で、腸内改善や免疫機能向上が期待されます。ガラクトオリゴ糖は腸内の善玉菌の栄養源で、善玉菌をふやして腸の働きを活性化します。
〈10g×30包〉3,000円(税抜)

対象商品を1個購入ごとに応募はがきを進呈、抽選で毎月20名に賞品をお届けします。
お求め・お問い合わせは、あなたの街のJA配置薬推進員にお気軽にご連絡ください。

■対象期間：2018年4月1日～2018年9月30日 ■応募方法：対象商品を1個ご購入ごとに、応募ハガキをお渡します。

さらに、期間中300名にJA配置薬サンプルセットとオリジナルエコバッグが当たります!

選べるグルメプレゼント

1 てぬきのできご飯のもと 10缶セット

2 三國シェフ監修 北海道霜降りハンバーグ おろしソース付

3 海鮮焼き詰合せ

4 三國シェフ推奨 北海道クリームブリュレ 8本セット

※この画像はイメージです

JAのあゆみ 8月

- 5日 北海道150年記念式典(札幌)
- 5日 JA女性部フレッシュユニクス 視察研修(網走)
- 6日 JA青年部・女性部合同会議(本所)
- 9日 第23回上川農業試験場公開デー
- 10日 JA女性部・フレッシュユニス意見交換会(支所)
- 13日 わくわく農感塾バスツアー(札幌)
- 14日 愛別地区年金友の会役員会
- 18日 第25回あいべつ夏祭り
- 18日 コープさっぽろ産直交流会
- 20日 JA女性部愛別支部第2回役員会
- 20日 内部監査(〜21日 購買部)
- 21日 大根掘取り体験(上川町幼児)
- 22日 総務金融専門委員会
- 24日 O B会愛別支部第1回役員会
- 26日 第41回上川町ふる里まつり
- 27日 企画会議
- 28日 農家経済対策委員会
- 29日 営農経済専門委員会
- 30日 内部審査協議会審査(上川営農センター)
- 30日 愛別町農業委員会
- 31日 第7回定例理事会・作況調査
- 31日 愛別地区組合員大感謝祭

組合員のうごき

(平成30年7月20日現在)

総組合員数	2,401名
正組合員数	543名
うち団体数	35団体
准組合員数	1,858名
うち団体数	64団体

JAグループ通信

JA北海道中央会



11月開催の第29回JA北海道大会に向けて組合員の声を反映させるため、9月末を期限とする組織討議を実施します。原案には、前回大会で掲げたJAグループの将来ビジョン「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」に向けて、農業所得増大やサポーター550万人づくりの継続実施などを盛り込むほか、重要性を増す「協同組合の価値と実践」を新たに加えております。また、各JAにおける組織討議に加えて、組合員の皆さんから直接ご意見を提出いただけるよう、意見提出様式を公開しておりますので、ご提案を賜りますようお願い申し上げます。



JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介、各団体の詳しい内容はWEBサイトをご覧ください。

いつでもどこでも、みんなのJA

変わるJA 広がる地域のきずな

監修=広島大学 助教 小林元

Q、なぜ、JAの自己改革は期限を設けているの？

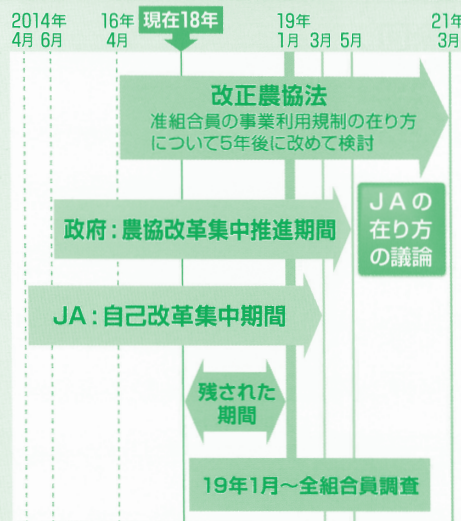
A、改革に積極的に取り組む姿勢を明らかにするためです。

JAグループは第27回JA全国大会実践期間中(2016～18年度)、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を通じた「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に取り組んでいます。そして、19年4月からは次の第28回大会の実践が始まるので、19年3月がひとつの区切りになります。

同時に、政府が進める農協改革集中推進期間も視野に入れる必要があります。政府は、農協改革の“期限”を19年5月と区切っています。この期限までに、JAが自ら改革を進めることができるかが、政府の今後の農協改革への対応を左右します。16年に改正された農協法では、准組合員の事業利用について5年後(21年)に改めて検討する、と明記されています。

「改革」に終わりはありませんが、わたしたちJAはこうしたスケジュールも念頭において、自己改革を一層スピードアップする必要があります。

自己改革・農協改革をめぐるスケジュール



耕そう、大地と地域のみらい。

今日の朝食に…



ポイント

前日、夕食用に作ったダイコンとスペアリブの煮物と残ったご飯を焼きおにぎりになると、合わせだしを作るだけでよく、まるやかな辛味のだしで食が進みます。コチュジャンの量はお好みで。

シャキシャキレタスのスペアリブ茶漬け

材料 (1人分)

スペアリブ…1本
レタス…1/8個
ダイコン…皮をむいた1cm厚の輪切りを2個
ダイコンの葉…適量
焼きおにぎり…1個
合わせだし
水…3カップ
コチュジャン…小さじ2
塩…小さじ1/2
料理酒…大さじ1
ネギの青い部分…1本
ショウガ…1片

作り方

- (1) スペアリブは塩(材料外)をして常温で1時間置き、熱湯でさっと湯がく。輪切りのダイコンは面取りしておく。
- (2) 圧力鍋に(1)と合わせだしの材料を全て入れ、沸騰してから中火で10分煮る。
- (3) ダイコンの葉は材料外のごま油、酒、砂糖、しょうゆで炒め、きんぴらにする。
- (4) 深めの器に焼きおにぎり、スペアリブ、ダイコン、レタスを盛り付け、青ネギとショウガを取り除いた(2)のだし汁を張り、ダイコンの葉のきんぴらを添え出来上がり。



農機センター
休日営業のお知らせ

9月24日(月・祝)

8:30~12:00
日直で対応します。電話/6-5004

編集後記

8月8日は一日快晴予報…広報誌の取材と役場との打合せで上川町へ。始めに向かった役場での打合せが終わり、役場から出ようとする時出口右横にある戸籍係で私の名前を呼ぶ人がいたので目をやると、農家さんと綺麗な女性が一緒に座っていました。ニヤニヤした顔を見て「入籍?」と聞くと…「今、入籍しています!」と満面の笑みをくれました。8月8日は「ハレの日」一日快晴でした。
担当 ペイマックス・H

みんなの 声のかけあい・安全確認で、農作業事故を無くしましょう!

まずは
ワンチェック、ワンアクションで農作業安全!!

全国農作業安全確認運動 農林水産省・(株)日本農業新聞